

【概略】

平成27年度 男鹿市財務状況把握の結果概要について

総合評価

債務償還能力〔地方債等の債務の大きさとその償還原資を獲得する能力〕

問題なし

実質債務月収倍率(②)が低いことから、債務の水準に**問題はない**。
また、行政経常収支率(④)がやや低いものの、債務償還可能年数(①)が15年未満と短いことから、償還原資の水準に**問題はない**。

資金繰り状況〔経常的な収支と積立金等の備えからみた資金余裕状況〕

積立低水準

行政経常収支率(④)がやや低いものの、0%を上回っていることから、経常的な収支の余裕度の水準に**問題はない**。
また、積立金等月収倍率(③)がやや低く、かつ、行政経常収支率(④)がやや低いことから、**積立低水準の状況**。

財務指標

指標	①債務償還可能年数 〔 $\frac{\text{実質債務}}{\text{行政経常収支}}$ 〕	②実質債務月収倍率 〔 $\frac{\text{実質債務}}{\text{行政経常収入} \div 12}$ 〕	③積立金等月収倍率 〔 $\frac{\text{積立金等}}{\text{行政経常収入} \div 12}$ 〕	④行政経常収支率 〔 $\frac{\text{行政経常収支}}{\text{行政経常収入}}$ 〕
問題なし	14.2年	12.0月		
やや注意		18月	3月	10%
注意	15年	24月	1月	0%

問題なし

(債務系統)

債務償還能力

問題なし

(収支系統)

積立低水準

(積立系統)

資金繰り状況

今後の見通し

今後の見通しについては、提出していただいた収支計画（平成33年度）に基づき実施したヒアリング等の結果を記載しています。

■債務償還能力

- 行政経常収支率は、10%未満でありやや低く、かつ、債務償還可能年数が15年以上と長いことから、収支低水準の状況であると考えられる。
- 実質債務月収倍率は、18月未満であり低いことから、問題のない水準であると考えられる。

■資金繰り状況

- 行政経常収支率は、10%未満でありやや低いものの、0%を上回っていることから、問題のない水準であると考えられる。
- 積立金等月収倍率は、3月未満でありやや低く、かつ、行政経常収支率が10%未満とやや低いことから、積立低水準の状況であると考えられる。